

平成25年度  
**博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要** [採択時公表]

機関名	滋賀医科大学	機関番号	14202
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> <small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 <small>ほんば ただお</small> 馬場 忠雄 (滋賀医科大学長)		
2. プログラム責任者	<small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 <small>はっとり たかのり</small> 服部 隆則 (滋賀医科大学副学長(教育等担当))		
3. プログラム コーディネーター	<small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 <small>みうら かつゆき</small> 三浦 克之 (滋賀医科大学大学院医学系研究科環境応答因子解析系専攻・教授)		
4. 申請類型	U <オンリーワン型>		
5.	プログラム名称	アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト	
	英語名称	Leading graduate program for reducing the burden of non-communicable disease(NCD) in the Asian Pacific region	
	副題	アジア太平洋州におけるNCD対策を牽引するグローバルリーダーの養成	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(医学) アジアNCD超克リーダー		
7. 主要分科	<small>(① ) (② ) (③ )</small> ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、情報学基礎、健康・スポーツ科学、ゲノム科学		
8. 主要細目	<small>(① 疫学・予防医学 ) (② 衛生学・公衆衛生学 ) (③ 内科学一般(含心身医学) )</small> ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	応用健康科学、ゲノム医科学、外科学一般、統計科学		
9. 専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	<u>医学系研究科環境応答因子解析系専攻</u> <u>医学系研究科生体情報解析系専攻</u> <u>医学系研究科高次調節系専攻</u> <u>医学系研究科臓器制御系専攻</u>		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:滋賀医科大学 申請類型:オンリーワン型 プログラム名称:アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト)

15. プログラム担当者一覧					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 服部 隆則	ハツリ 隆ノリ	67	副学長(教育等担当)	病理学 博士(医学)	総括責任者
(プログラムコーディネーター) 三浦 克之	ミウラ カツキ	49	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系専攻・教授	循環器疾患疫学 公衆衛生学 博士(医学)	企画・立案・コーディネート担当
Robert D. Abbott	アボット ロバート	62	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系・客員教授(Virginia大学教授)	生物統計学 疫学 PhD(生物統計学)	医学統計クラスタにおける講義・実習、少人数グループワーク、Presentation and Debates
上島 弘嗣	ウエシマ ヒロツグ	69	アジア疫学研究センター・特任教授	循環器疾患疫学 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける講義
前川 聡	マエカワ ヒロシ	56	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系専攻・教授	内分泌代謝学 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(糖尿病)
堀江 稔	ホリエ ミル	60	大学院医学系研究科・臓器制御系専攻・教授	循環器内科学 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(循環器疾患)
野崎 和彦	ノザキ カズヒコ	55	大学院医学系研究科・臓器制御系専攻・教授	脳神経外科 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(脳血管疾患)
村田 喜代史	ムラタ キヨシ	59	大学院医学系研究科・生体情報解析系専攻・教授	放射線医学 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義(MRI画像診断学)
三ッ浪 健一	ミツナミ ケンイチ	64	大学院医学系研究科・生体情報解析系専攻・教授	家庭医療学 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義(地域医療、家庭医学)
遠山 育夫	トヤマ イクオ	56	大学院医学系研究科・高次調節系専攻・教授	神経科学 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義(認知症)
岡村 富夫	オカムラ トモオ	62	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系専攻・教授	循環薬理学 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義(NCD基礎医学)
谷 徹	タニ トオル	64	大学院医学系研究科・臓器制御系専攻・教授	消化器外科学 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義(外科分野における技術支援)
浅井 徹	アサイ トオル	51	大学院医学系研究科・臓器制御系専攻・教授	心臓血管外科学 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義(外科分野における技術支援)
川畑 摩紀枝	カハタ マキエ	53	大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	公衆衛生看護学 博士(学術)	公衆衛生クラスタにおける講義・実習(公衆衛生看護)、短期研修
宮松 直美	ミヤマツ ナオミ	49	大学院医学系研究科・看護学専攻・教授	成人保健学・疫学 博士(保健学)	NCD臨床クラスタにおける講義(臨床看護・コメディカル)
安藤 朗	アンドウ アキラ	54	大学院医学系研究科・高次調節系専攻・教授	粘膜免疫学 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(がん)
扇田 久和	オウギタ ヒサカズ	42	大学院医学系研究科・生体情報解析系専攻・教授	生化学 博士(医学)	海外技術支援クラスタにおける講義(NCD基礎医学)
永田 啓	ナガタ ケイ	59	大学院医学系研究科・臓器制御系専攻・教授	医療情報学・視覚 情報処理 博士(医学)	国際交流クラスタにおける講義・実習(医療情報)
小森 優	コモリ ユウ	60	大学院医学系研究科・生体情報解析系専攻・教授	医用工学 博士(工学)	国際交流クラスタにおける講義・実習(Information Technology)
相浦 玲子	アイウラ レイコ	58	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系専攻・教授	英語・英文学、異文化コミュニケーション 修士(文学)	国際交流クラスタにおける講義・実習、少人数ワークショップ、Presentation and Debates
室寺 義仁	ムロジ ヨシヒト	55	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系専攻・教授	インド仏教学 博士(学術)	国際交流クラスタにおける講義・実習、少人数ワークショップ、Presentation and Debates
Elliott Paul	ポール エリオット	58	London大学Imperial College・教授	循環器疾患疫学 博士(学術)	NCD疫学クラスタにおける講義・実習(国際共同研究)、海外研究機関短期研修
角野 文彦	カクノ フミヒコ	57	滋賀医科大学・特命教授(滋賀県健康福祉部・次長)	公衆衛生 修士(公衆衛生)	公衆衛生クラスタにおける講義・実習(国際保健)、短期研修
西 信雄	ニシ ノブオ	49	独立行政法人国立健康・栄養研究所・国際産学連携センター・センター長	社会疫学 博士(医学)	公衆衛生クラスタにおける講義・実習(健康格差、社会疫学)、短期研修
田中 英夫	タナカ ヒデオ	51	愛知県がんセンター研究所・疫学・予防部長	がん疫学 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける講義・実習(がん疫学)

(機関名: 滋賀医科大学 申請類型: オンリーワン型 プログラム名称: アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト)

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
村上 義孝	ムラカミ ヨシタカ	44	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系専攻・准教授	生物統計学・保健統計学 博士(保健学)	医学統計クラスタにおける講義・実習
宇津 貴	ウツ タカシ	50	大学院医学系研究科・臓器制御系専攻・准教授	腎臓内科学 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(CKD)
関川 暁	セキガワ アキラ	54	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系・客員准教授(Pittsburgh大学准教授)	循環器疾患疫学 博士(医学) 博士(学術)	NCD疫学クラスタにおける講義・実習(糖尿病)、海外研究機関短期研修
松下 邦洋	マツタ ケニヒロ	39	ジョーンズ・ホプキンス大学公衆衛生大学院・Assistant Scientist	腎臓疫学・循環器疫学・国際共同研究 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける講義・実習(CKD疫学)
中嶋 宏	ナカジマ ヒロシ	50	オムロン(株)技術・知財本部・技術専門職	情報工学(リアルタイムシステム・データ解析) 博士(工学)	公衆衛生クラスタにおける講義・実習(産学連携)、企業インターン研修
岩瀬 隆之	イワセ タカユキ	57	グラクソ・スミスクライン(株)開発本部臨床開発2部・担当部長	循環器・代謝部門の臨床開発 博士(獣医学)	公衆衛生クラスタにおける講義・実習(産学連携)、企業インターン研修
中野 恭幸	ナカノ ヤスタカ	49	大学院医学系研究科・臓器制御系専攻・講師	呼吸器疾患(特にCOPD) 博士(医学)	NCD臨床クラスタにおける講義(COPD)
藤吉 朗	フジヨシ アキラ	47	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系専攻・特任講師	臨床疫学・予防医学 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける講義・実習(循環器疫学・国際共同研究)
喜多 義邦	キタ ヨシキ	58	大学院医学系研究科・環境応答因子解析系専攻・助教	生活習慣病の疫学 博士(医学)	NCD疫学クラスタにおける講義・実習(循環器疫学)

(機関名: 滋賀医科大学 申請類型: オンリーワン型 プログラム名称: アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト)

**リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性**

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】非感染性疾患(Non-Communicable Disease、以下NCD)は21世紀の健康問題の核心的課題である。国際連合の現事務局長も「NCDの克服こそが国際連合の使命」と位置付け、国連NCDサミットを開催するなど、各国政府関係者および学術機関との連携を図っている。NCDはがん、脳心血管疾患、およびその危険因子である糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病の増加という形で顕在化し、アジア新興国において特に深刻な健康問題となっている。本プロジェクトは、アジア新興国における健康問題の解決と健康寿命の延伸を実現するためのリーダー育成を目指すプロジェクトである。

本学はこれまでわが国の生活習慣病疫学研究において中心的な役割を果たすとともに、国際共同疫学研究においても国内の他の研究機関の追随を許さない実績を持っている。さらに、平成25年4月に「アジア疫学研究センター」が大学内に設置されたことで、更なる研究・教育活動が開始されている。本プログラムはこれらの実績により長年蓄積された疫学研究フィールド、疫学データベース、疫学・生物統計学・生活習慣病医学分野での学内の人的資源、国内/国際共同研究・アジア提携校の人的ネットワーク、アジア疫学研究センターというハードウェアを最大限に活用して、NCD超克を中心課題とした大学院教育システムの再構築を行い、国内外の産学官の広い分野において活躍し、国際的センスをもつ「行動するトップリーダー」を養成することを目指すものである。

【特色】本プログラムは以下の5つの特色を持つ。

## ① アジア疫学研究センターを中核にすえた研究指導：

本学が有する多様かつ大規模な国内外のNCD疫学データベース、およびアジア疫学研究センターという研究施設を最大限に活用した大学院教育・研究指導を実施する。同センター主催の国際シンポジウムを博士論文発表の機会とし、世界基準の学位審査を行う。

## ② 英語コミュニケーションを重視したカリキュラム：

国際的に著名な疫学研究者・生物統計家の雇用または短期間招聘により、教育・研究指導の国際化を図る。英語ディベートに代表される、論理的議論を英語でできる国際人を養成する。

## ③ 国際的センスをもつ「行動するトップリーダー」の育成：

欧米・アジアの提携校・研究機関・行政機関・健康関連企業における短/長期研修制度を設置、世界レベルの研究技法習得やアジア特有の健康課題発掘を行う。アジアの公衆衛生現場でのフィールドワークを通し、アジアのNCD対策リーダーとしての資質を養う。

## ④ 単科医科大学のもつ機動性を生かした教育体制：

医学系、看護系、人文系教員を動員・担当することで、目が行き届いた教育体制を構築できる。都会の喧噪から離れた環境を利用し、留学生と日本人学生とのグループワークなどを通じたホスピタリティあふれる人材育成が展開できる。

## ⑤ 経済面も含め修学に集中できる環境：

奨学金制度を設置してアジア新興国からの留学を奨励する。都市部にみられる生活費高騰がない地域性、学生寮が完備等、生活面の支援が充実している。

【優位性】本プログラムは以下の点で、国内の他大学の追随を許さない優位性を持っている。

## ① 国内唯一のNCD疫学専門の研究センター(アジア疫学研究センター)の研究資源を最大限活用することで、希有な研究のもとでの大学院教育が可能である。

② 2つの国民を代表する大規模生活習慣病疫学データベースを長期間管理しており、また、複数の国際共同疫学研究の拠点となっている研究機関は国内でもほとんどなく、これらの疫学データベースと国際的ネットワークを用いた大学院教育が可能である。③ 国内疫学共同研究、国際疫学共同研究を通した国内外の疫学研究者、生物統計専門家、生活習慣病医学研究者との多彩なネットワークがあるため、短期招聘、ワークショップ開催、短期留学などによる世界レベルの教育機会提供が可能である。④ 臨床医学研究者と疫学研究者、さらに産業界・行政が連携した研究が活発に行われてきた実績があり、疫学、臨床医学、産業界、行政が緊密に連携した大学院教育が可能である。

## 学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

# アジアNCD超克プロジェクト

日本およびアジア新興国からの優秀な人材の確保

医療従事者(医師・保健師・栄養士など)、保健・医療セクタの行政官・NGO、健康・医療関連企業

## 1年次

希望者に奨学金補助

学生寮提供などの生活支援

### 医学基礎知識の修養

NCD臨床クラスタ教員による非感染性疾患の成因、診断、治療、予防に関する英語を中心とする講義

### 疫学・生物統計学の修養

公衆衛生・医学統計・NCD疫学クラスタ教員による英語を中心とする講義・演習

### 少人数グループワーク

日本人2、留学生1をペアとし、研究倫理、異文化理解、コミュニケーション向上を目的とした、英語の1年間のグループワーク

## 2年次

### 研究計画の推敲

国際水準の博士論文をめざし、1年間かけて研究計画の推敲を指導教官とともに行う。

### 海外研究機関短期研修

欧米およびアジアの大学・研究機関 (Pittsburgh, Hawaii, London, Northwestern, Sydney, Bangladesh, Vietnam等)での研究技法習得

### Presentation and Debates

英語による発表技法を学ぶとともに、論理的な議論(ディベート)ができるような国際人を育てる

## 3,4年次

### 博士論文執筆

欧米一流雑誌3編の掲載を目標にして、それらをまとめた博士論文の作成をおこなう。

### 海外学会等での武者修行

国際学会発表で複数回経験、海外研究機関、行政機関、民間企業での研修などにより、現場経験を積む

### アジア・フィールドワーク

本学のアジア提携校を基地としてアジアの公衆衛生現場に滞在し、研究テーマ探索と研究遂行

## 修了後

海外ネットワークを駆使した世界基準の学位審査による博士号取得

滋賀医大アジア疫学研究センター主催の国際シンポと連動した学位論文審査

アジアNCD超克を共通の使命とする行動するリーダーをアジア諸国に輩出

大学・研究機関、行政機関・NGO、企業・医療機関、など

機 関 名	滋賀医科大学
プログラム名称	アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト
<p>[採択理由]</p> <p>アジアにおける非感染性疾患（NCD）を克服するためのリーダーを育成するユニークなプログラムであり、これまでの疫学研究の実績にもとづき設置された「アジア疫学研究センター」を最大限に活用するなど、全学が一丸となって取り組むプログラムの構想がよく練られている。単科医科大学の特色を生かした改革も行われ、多様な外国人教員も雇用してグローバルリーダーの育成を図る時宜を得た優れた教育プログラムであり、国際貢献も期待され、オンリーワン性が認められる。</p> <p>なお、評価の詳細については次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの公衆衛生現場でのフィールドワーク環境が整備されていることは評価できる。</li> <li>・キャリアパスの構築への取り組みも考えられており、社会的ニーズにも対応するものである。</li> <li>・これまでの国際連携や産学連携の実績は高く評価できる。</li> <li>・アジアの医療水準を引き上げることにも期待がもてる。</li> </ul>	